

## 「ラザロの復活」(1)

ヨハ 11 : 1~27

### 1. はじめに

#### (1) 文脈の確認

- ① イエスは、ヨルダン川の東側、ペレアで活動している。
- ② ユダヤに行くのは、危険である。国の指導者たちが、イエスの命を狙っていた。
- ③ ベタニヤは、エルサレムの東数キロのところにある村である。
- ④ そこは、マルタ、マリア、ラザロが住んでいた村である。
- ⑤ イエスがいた場所から徒歩で約1日の距離である。
- ⑥ ベタニヤで、イエスは公生涯最後の大いなる奇跡を行われる。

#### (2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 118 イエスはラザロを死から甦らせる (ヨハ 11 : 1~44)

#### (3) 死からの復活

- ① イエスは、同様の奇跡を行っていた (厳密には蘇生)。
  - \* マコ 5 : 41~42 会堂管理者の娘  
「タリタ、クミ」
  - \* ルカ 7 : 14~15 ナインのやもめのひとり息子  
「青年よ。あなたに言う、起きなさい」
- ② それらの奇跡との違い
  - \* 死んですぐの復活と、4日目の復活
  - \* 数節と、44節
  - \* 少数の目撃者と、多数の目撃者
- ③ ラザロの復活は、「ヨナのしるし」である。
  - \* イエスのメシア性を証明する奇跡。公生涯で最大の奇跡と言ってもいい。
  - \* 国の指導者たちは、信仰によって応答しなければならない。

### 2. アウトライン

- (1) イエスと弟子たち (1~16節)
- (2) イエスとマルタ (17~27節)
- (3) イエスとマリア (28~32節)
- (4) イエスとラザロ (33~44節)
- (今回は、(1) と (2) を取り上げる)

### 3. 結論

- (1) 聖書が教える死の意味
- (2) 光と闇の葛藤

死といのちについて考えてみる。

#### I. イエスと弟子たち (1~16 節)

##### 1. 1~3 節

Joh 11:1 さて、ある人が病気にかかっていた。ラザロといって、マリヤとその姉妹マルタとの村の出で、ベタニヤの人であった。

Joh 11:2 このマリヤは、主に香油を塗り、髪の毛でその足をぬぐったマリヤであって、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。

Joh 11:3 そこで姉妹たちは、イエスのところに使いを送って、言った。「主よ。ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気です。」

- (1) ヨハネは、マリアを中心にこの一家を紹介している。
  - ①「主に香油を塗り、髪の毛でその足をぬぐったマリヤ」と説明している。
  - ②イエスは、ベタニヤ村のこの一家を愛された。
  - ③取るに足りないこの村が、イエスを愛する者たちがいたので有名になった。
- (2) ラザロが重病になった。
  - ①ラザロの罪が問題だという指摘は、全くない。彼は義人である。
  - ②姉妹たちは、イエスのところに使いを送った。そこまでの距離は、1日である。
  - ③「あなたが愛しておられる者」というのが、イエスへの懇願のベースにある。
  - ④ところが、ラザロはその直後に亡くなったようである。

##### 2. 4~6 節

Joh 11:4 イエスはこれを聞いて、言われた。「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです。」

Joh 11:5 イエスはマルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた。

Joh 11:6 そのようなわけで、イエスは、ラザロが病んでいることを聞かれたときも、そのおられた所になお二日とどまられた。

- (1) ラザロの病気は、死で終わるものではない。
  - ①この病気の最終結末は、肉体の死ではない。
  - ②ラザロは復活し、神の栄光が現れる。

③それによって、神の子は栄光を受ける。

(2) ここには、アイロニー(皮肉)がある。

①父なる神へのイエスの従順が示された。

②イエスはラザロにいのちを与えるが、そのことがイエスを十字架の死に導く。

③十字架の死は、イエスの栄光の現れである。

(3) イエスは、なおもその場所に2日とどまった。

①「わたしの時がまだ満ちていないからです」(ヨハ7:8)

②イエスは、父なる神のタイムテーブルに従って行動する。

### 3. 7～10節

Joh 11:7 その後、イエスは、「もう一度ユダヤに行こう」と弟子たちに言われた。

Joh 11:8 弟子たちはイエスに言った。「先生。たった今ユダヤ人たちが、あなたを石打ちにしようとしていたのに、またそこにおいでになるのですか。」

Joh 11:9 イエスは答えられた。「昼間は十二時間あるでしょう。だれでも、昼間歩けば、つまづくことはありません。この世の光を見ているからです。」

Joh 11:10 しかし、夜歩けばつまづきます。光がその人のうちにはないからです。」

(1) 弟子たちの認識

①もう一度ユダヤに行くのは、危険である。

②生まれつきの盲人の癒しの後で、ユダヤ人たちはイエスに石を投げようとした。

③そこで弟子たちは、イエスがベタニヤに行かないように説得する。

(2) イエスの認識

①ベタニヤに行くのは、そんなに危険なことではない。

②神の御心の内を歩めば、つまづくことはない。

### 4. 11～12節

Joh 11:11 イエスは、このように話され、それから、弟子たちに言われた。「わたしたちの友ラザロは眠っています。しかし、わたしは彼を眠りからさましに行くのです。」

Joh 11:12 そこで弟子たちはイエスに言った。「主よ。眠っているのなら、彼は助かるでしょう。」

(1) イエスの認識

①ラザロは「わたしたちの友」。イエスの命令を実行する人は、友である。

②ラザロは眠っている。死んだという意味。

\*新約聖書では、眠りは肉体の状態に言及する言葉である。

\*信者にのみ適用する言葉である。

③眠りからさましに行く。復活させるために行く。

(2) 弟子たちの認識

①眠っているなら、行かなくても助かるでしょう。

②ベタニヤに行かないための口実を設けている。

5. 13～15 節

**Joh 11:13** しかし、イエスは、ラザロの死のことを言われたのである。だが、彼らは眠った状態のことを言われたものと思った。

**Joh 11:14** そこで、イエスはそのとき、はっきりと彼らに言われた。「ラザロは死んだのです。

**Joh 11:15** わたしは、あなたがたのため、すなわちあなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいますが、さあ、彼のところへ行きましょう。」

(1) イエスは明確に意図を明らかにされた。

①ラザロは死んだ。

②自分がその場に居合わせなかったことを喜んでいる。

③ラザロの死を喜んでいるのではない。

④もしイエスがそこにいたなら、ラザロは死んでいなかった。

\*イエスの前で人が死んだという記録はない。

⑤ラザロが死んでいなかったら、復活の奇跡が行われることもなかった。

(2) イエスは、「あなたがたが信じるためには」と言われる。

①弟子たちはすでに信じていたが、まだ信仰が成長する余地があった。

6. 16 節

**Joh 11:16** そこで、デドモと呼ばれるトマスが、弟子の仲間と言った。「私たちも行って、主と一緒死のうではないか。」

(1) トマスは、疑り深い人物として有名である。

①ここでは、自己犠牲の精神を表明し、リーダーシップを発揮している。

②しかしこれは、落胆から出た開き直りの言葉のようである。

(2) この言葉もまた、アイロニー（皮肉）である。

①彼は、メシアの死と自分たちの死の違いを理解していない。

②彼の意図とは異なるが、結果的に、弟子たちのほぼ全員が殉教の死を遂げる。

## II. イエスとマルタ (17～27 節)

### 1. 17～19 節

Joh 11:17 それで、イエスがおいでになってみると、ラザロは墓の中に入れて四日もたっていた。

Joh 11:18 ベタニヤはエルサレムに近く、三キロメートルほど離れた所にあった。

Joh 11:19 大ぜいのユダヤ人がマルタとマリヤのところに来ていた。その兄弟のことについて慰めるためであった。

- (1) ラザロは4日間墓に入っていた。
  - ①使者がイエスのところに来るのに1日かかる。
  - ②イエスは、そこに2日留まった。
  - ③イエスがベタニヤに来るのに1日かかった。
  - ④パリサイ人たちは、死者の魂は死後3日間漂っていると教えた。
  - ⑤4日経つということは、蘇生の見込みがなくなったという意味である。
  - ⑥当時の埋葬法は、2段階に分かれていた。
    - \*遺体を麻布にくるんで埋葬した。
    - \*後に、遺骨を石棺に納めた。

- (2) ベタニヤはエルサレムから3キロメートルほどである。
  - ①エルサレムからも人々が来ていた。
  - ②イエスの公生涯の終わりに起こることを予感させる。

- (3) 大ぜいのユダヤ人が、遺族を慰めるためにそこに来ていた。
  - ①ユダヤ教では、「シバ」(7日間)という習慣が発展した。
  - ②今でも、この習慣が生きている。

(例話) 第60回聖地旅行での体験

### 2. 20～22 節

Joh 11:20 マルタは、イエスが来られたと聞いて迎えに行った。マリヤは家ですわっていた。

Joh 11:21 マルタはイエスに向かって言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」

Joh 11:22 今でも私は知っております。あなたが神にお求めになることは何でも、神はあなたにお与えになります。」

- (1) マルタは行動的であり、マリアは思索的である。

(2) マルタの言葉は、信仰告白である。

①彼女は、イエスは癒しの力を持っていることを信じていた。

\*これは、限定的信仰である。イエスは距離を乗り越えて奇跡を行う。

②イエスを責める意図はない。イエスに情報が届く前に、ラザロは死んでいた。

③イエスの上に、神の祝福があることを信じていた。

### 3. 23～24 節

**Joh 11:23 イエスは彼女に言われた。「あなたの兄弟はよみがえります。」**

**Joh 11:24 マルタはイエスに言った。「私は、終わりの日のよみがえりの時に、彼がよみがえることを知っております。」**

(1) イエスの認識

①ラザロはすぐに甦る。

②マルタの信仰を引き上げようとしている。

(2) マルタの認識

①ラザロは、終わりの日に甦る。

### 4. 25～26 節

**Joh 11:25 イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」**

**Joh 11:26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」**

(1) 「わたしは、〇〇です」はイエスの神性宣言である。

①「わたしは、よみがえりです。いのちです」は、第5の神性宣言。

(2) イエスのことばのパラドックス

①肉体の死が、新しいいのちをもたらす。

②イエスを信じる者は、肉体的に死んでも、霊的には永遠に生きる。

③霊的いのちは、やがて栄光の体に結びつく。

### 5. 27 節

**Joh 11:27 彼女はイエスに言った。「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストである、と信じております。」**

(1) マルタの信仰告白

- ①イエスはメシアである。
- ②イエスは神の子である。
- ③イエスは、世に来られるお方である。

「しゅろの木の枝を取って、出迎えのために出て行った。そして大声で叫んだ。  
『ホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に』  
(ヨハ12:13)

(2) マルタの信仰の限界

- ①ラザロがすぐに甦るといふ信仰はない。

## 結論

### 1. 聖書的死の意味

- (1) 死は、罪がもたらした悲劇である。

「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです」(ロマ5:12)

- (2) 肉体の死は、霊的死に関する実物教育である。

\*肉体の死は、霊と肉体の分離である。

\*霊的死は、神からの分離である。

- (3) イエスは、人々にいのちを与えるために来られた。

「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです」(ヨハ10:10)

- (4) 2種類の人たちがいる。

「御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる」(ヨハ3:36)

- ①イエスを信じて命を得る人たち

- ②イエスを拒否する人たち

\*最後は、「火の池」に行く。第2の死である(黙20:14~15)。

### 2. 光と闇の葛藤

「イエスは答えられた。『昼間は十二時間あるでしょう。だれでも、昼間歩けば、つまづくことはありません。この世の光を見ているからです。しかし、夜歩けばつまづきます。光がその人のうちにないからです』」(ヨハ11:9~10)

- (1) これは、ヨハネの福音書のサブテーマである。

(2) 直接的な意味

- ①太陽が出ている時間は、日に12時間ある。
- ②その時間に歩けば、光があるので、歩いてもつまづかない。

(3) 適用

- ①自分は、父なる神の御心の中を歩いている。
- ②それゆえ、安全である。
- ③父なる神の御心の外を歩いている人は、危険な状態にある。
- ④それは、闇の中を歩くことである。
- ⑤神の御心に従っている人には、神が定めた時以外に死が襲うことはない。
- ⑥イエスがおられる間に信じなければ、やがて闇が襲うようになる。